

【東北地区】

(1)実施日	平成 26 年 6 月 7 日(土)
(2)実施場所	宮城県伊豆沼鳥獣保護区（宮城県登米市新田）
(3)参加者	28 名
(4)協力・指導者	(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団 指導者：当財団研究員（水産学博士） 藤本 泰文氏 他 1 名
(5)活動内容・概要	<p>オリエンテーションの後、ブラックバス（稚魚）駆除。          ＊当日は、梅雨入り直後で、駆除活動中に雨にあたる。          ＊本日の成果は、計 10 尾弱と残念な結果。          ＊それでも、継続した駆除活動により年々減少し、昨年は 50 群（件）の成果しかなく、今年も、私たちがまだ 3 群目とのこと。          ＊雨模様の天気でもあり、予定よりやや早めの帰着となった。</p> 
(6)スケジュール	<p>08:50 仙台駅から貸切バスで出発(実際の作業内容を知ってもらうため、車内でパンフレットを回覧)</p> <p>10:00 登米市淡水魚館に到着後、駆除活動を行う伊豆沼岸まで徒歩移動(約 10 分)。活動前に、胴長を着用。</p> <p>10:30～11:30 ブラックバス(稚魚)の駆除活動。 2 班に別れ、①稚魚すくい ②人口産卵床 による駆除を交互に実施。</p> <p>11:45～12:15 淡水魚館に戻り、展示物(伊豆沼に生息する魚類・植物等)や生態等の説明と見学。</p> <p>12:40～14:20 金成温泉(延年閣)で入浴・昼食</p> <p>15:30 仙台駅到着。解散。</p>
(7)参加者の感想	<p>①どれがバスの稚魚なのか、他の稚魚との区別がつかない。</p> <p>②成果が少なく、残念。</p> <p>③成果が無かったが、稚魚すくいは夢中になってしまう。</p> <p>④若手の参加者からは、次回も参加したいと意思表示があった。</p>
(8)その他情報	<p>伊豆沼・内沼は、渡り鳥(ハクチョウ・マガン等)の飛来地として、国際的に高い評価を得ており、特にマガンは日本に飛来する鳥の 80%が渡ってくる。</p> <p>一方、バスは 1996 年頃から増加したが、2005 年をピークに年々減少し、一時減少した小魚等が増えてきている。駆除活動は、産卵期の 5 月下旬から 6 月上旬が最適。</p>